

反核医師の会 HANKAKU ISHI no KAI News ニュース

Physicians Against Nuclear War (PANW)
核戦争に反対する医師の会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-5-5
新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話 03(3375)5123 FAX 03(3375)1885
e-mail: panw@doc-net.or.jp
http://no-nukes.doc-net.or.jp/

IPPNW 世界大会 in ケニア ～軍縮と気候危機、健康～

4 / 27～29



松久凌大氏
(秋田大学3年)

「双子」の人類存亡危機にどう向き合うか

IPPNW第23回世界大会inケニアが4月27日～29日の日程で開催された。今回、反核医師の会からは医師、医学生、事務局ら6名が現地に参加した。以下に現地参加した医学生の松久凌大氏(秋田大学3年生)の報告を掲載する。

2023年4月25日。ケニアの第一都市、モンバサに降り立ちました。大雨季にもかかわらずカラッと晴れた天候に迎えられ、車に揺られること1時間弱。ホワイトサン

ドビーチホテルは、インド洋を望む南国の海岸に向かって開かれていました。コロナ禍の影響で3年間開催が延期されていた4日間のInternational Physicians for the prevention of Nuclear War (核戦争防止国際医師会議)世界大会が、ここで開催されました。「軍縮と気候危機、健康」とのテーマを掲げた本会は、総勢100名を超える医師ら医療職及び医学生らが参加し、「核兵器と健康」、「エネルギー選択・核エネルギー・ウラン採掘」、「軍国主義と発展、健康」、「TNP (核兵器禁止条約)

2面へつづく

各位 2023年7月吉日 「反核医師のつどい2023 in 北海道」への募金のお願い 実行委員長 平野 哲夫(北海道反核医師・歯科医師の会会長代行)

謹啓 初夏の候、先生方におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また日頃から、反核・平和の諸活動にご奮闘いただき、心より敬意を表すものです。

さて、今年の第33回「核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい」(反核医師のつどい)は、9月23日(土)24日(日)に、10年ぶりで北海道札幌市で開催されます。今回のメインテーマは、「核兵器も核のごみもないピリカ・アイヌモシリ(美しく静かなる大地)を未来へ」です。記念講演として元外務省国際情報局長の孫崎享さんに「ウクライナでのロシアの核兵器使用論台頭をふまえ核兵器使用をさせないための現状分析と日本の未来」と題してお話しいたします。その他、教育講演やシンポジウムなどを準備しております。

コロナ禍でオンライン開催が中心となったこの3年余りですが、今回は昨年兵庫でのつどいと同様に現地+オン

ラインのハイブリッド方式で実施します。しかし、記念講演をはじめ講師陣の多くは札幌まで来ていただくのと、物価高騰の折、諸経費がかさむことが予想されています。

核戦争の危機がかつてなく高まっている現在、これに抗して開かれる「反核医師のつどい」の成功のため、財政的支援について皆様の特段のご協力をいただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

記
「反核医師のつどい」成功のための募金にご協力いただきたいこと(同封の振込用紙をご利用ください)。金額は任意でかまいません。領収書は発行しませんが、必要な方は、反核医師の会事務局までご連絡ください。

※なお、振込用紙の通信欄に「反核医師のつどいカンパ」と必ず記載下さい。また、今年度の会費と一緒に送金される場合は、わかるように記載をお願いします。

第33回反核医師のつどい in 北海道

核兵器も核のごみもないピリカ・アイヌモシリ(美しく静かなる大地)を未来へ

核戦争に反対する医師の会(反核医師の会)では、ほぼ毎年反核医師のつどいを開催してきましたが、第33回の今年は、10年ぶりに北海道で開催することになりました。ぜひ多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

2023年9月23日(土・祝)24日(日)
会場 ANAクラウンプラザホテル札幌 札幌市中央区北3条西1-2-9 JR札幌駅から徒歩7分



今年5月に岸田首相の肝いりで、広島で開かれたG7首脳会議での「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」では、核兵器のない世界を究極の目標と位置づけ、「核抑止」論を公然と宣言している。被爆者団体などから、失望したなどの厳しい声が出るのは当然だ。日本政府が、あくまでも核兵器国と非核兵器国の仲立ちを主張するのであれば、11月に開かれる核兵器禁止条約の第2回締約国会議にオブザーバー参加をすべきだ。日本政府に核兵器禁止条約の批准を求める署名は、20年10月から始まっている。私は、健診を受診する人たちに、1分かけてウクライナのことや署名の必要性を説明し、署名をお願いしている。ほとんどの人がしてくれて、28000筆を超えた。みなさんも気軽にアタックしてほしい。(T・N)

ウクライナ軍によるロシア軍占領地への反転攻勢が始まった。ロシアのプーチン大統領は、昨年2月のウクライナ侵略以来、ロシアが核大国の一つであることを強調しながら、核兵器使用の威嚇を繰り返してきた。核の先制使用に言及している。追い詰められると核兵器を使うのではないかと心配する人も多い。今回のことでも可能性が強まったとも言える。戦術核兵器を使うことが想定されるが、核戦争につながる可能性がある。絶対に許してはならない。

昨年8月のNPT再検討会議では、ロシアの反対で最終文書は採択されなかった。核大国は第6条の核軍縮の義務に真剣に向き合っていないと思えない。

今年5月に岸田首相の肝いりで、広島で開かれたG7首脳会議での「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」では、核兵器のない世界を究極の目標と位置づけ、「核抑止」論を公然と宣言している。被爆者団体などから、失望したなどの厳しい声が出るのは当然だ。日本政府が、あくまでも核兵器国と非核兵器国の仲立ちを主張するのであれば、11月に開かれる核兵器禁止条約の第2回締約国会議にオブザーバー参加をすべきだ。日本政府に核兵器禁止条約の批准を求める署名は、20年10月から始まっている。私は、健診を受診する人たちに、1分かけてウクライナのことや署名の必要性を説明し、署名をお願いしている。ほとんどの人がしてくれて、28000筆を超えた。みなさんも気軽にアタックしてほしい。(T・N)





PANWメンバー

左から
真下 弘氏 (保団連事務局)
松久 凌大氏 (秋田大学3年生)
矢野 正明医師 (反核医師の会監査)
山本 節子医師 (反核医師の会・愛知)
武田 勝文医師 (反核医師の会常任世話人)
田村 大地氏 (信州大学5年生)

1面からつづく
ぐ取り組みの発表があり、日本独自の経験を世界に向けて発信しました。
翌27日には医師を交えた議論を開始するにあたり開会式に続き、全体会議が2つ、ワークショップが2つ催されました。
会議では「軍縮と気候、健康を結びつける」と題し、核と気候危機―双子の存亡の危機ともよばれるこれらの問題をどう結び付け、どうやって人々にわかってもらえばいいのか、といった大会全体にわたって主軸となるテーマでの議論が行われました。

武装国としての経験や核をめぐるサプライ・チェーンでのCO2の排出などによる影響から、気候



問題の解決には核軍縮が必須であると発表がありました。また、軍部活動による気候変動において最も影響を受けやすいのはアフリカやアジア、南アメリカを代表とする航

各国の取り組みを発表している左から
ゲラ・サンティカ氏 (オーストラリア、医学部6年生)
ポフルメイアー・キャサリーナ氏 (ドイツ、心理学4年生)
松久
問題を色濃く反映していることを指摘しました。
3日目の28日には午前中に「紛争と気候変動の影響、平和構築」に関する会議やワークショップが開催され、午後にはYouth Forumに引き続いてそれぞれの世代の力を活用して反核運動を広める方法について検討が行われました。



モンバサの海岸線

『Medicine, Conflict and Survival』誌編集者
シムロン・バーチ氏に



左: ルース・ミッチェル PPNW 理事より「戦争を疾患として」
右: カルロス・ウマナー PPNW 共同代表
捉えていく視点から戦争・紛争を疫学的に検討していく方法について述べられたほか、アンゲラ・ナンビロ氏よりウクライナ戦争がアフリカの食糧問題に対して及ぼしている影響について発表がありました。

「我々は支える手立てや経験は持っている。でも、若者がどういった支援を欲しているのかはわからない。だから積極的に要望を発信して取り組みを進めていくしてほしい」との発言に対し、学生側からも「今まで活動を引っ張ってきたくれている年長者に感謝を伝えよう」との声かけがあり、「年長者の知恵と若者のエネルギー」の標語の下、温かいながらも活動への熱量をもった会議となりました。IPP

Youth Forum の中では、学生より数々の取り組みを提言し、世代間をつないで活動を紡いでいく方法が熱心に議論されました。IPPNW 理事

反核医師の会 第19回全国大会の概要 6/11



現地会場の様子



報告する沼口護さん (学生部会)

反核医師の会は6月11日に第19回全国大会および記念講演を開催し、当日はWEB出席を含め約60人が参加した。
大会始めに、原和代表世話人より2022年度の活動まとめと2023年度活動方針案が提案され、ウクライナ戦争でのロシアによる核兵器使用の恫喝などにより、終末時計が過去最悪の「残り1分30秒」となったことに触れ、核戦争の脅威に晒される国内外の厳しい情勢を再確認

3面へつづく

た。その中に、JPPNW に対して原発汚染水海洋放出問題に反対してほしいとの提言がなされましたが、これは拒否されました。そのため、5月15日付で日本の姿勢に対して非難する声明がなされました。唯一の被爆国、そして原発被災国としての日本の姿勢は今、世界に厳しく問われています。日本は何をなし、示していくべきなのでしょう。

NWの世代間のフラットさ、発言・議論のしやすさには、日本は多く学ぶところがあると感じます。
4日目、世界大会としては最終日には「気候変動に対するエネルギー選択」と「核兵器禁止条約の普遍化に向けて」の議論が行われました。アンジェリカ・クラウセン氏から核兵器を保有している国が核エネルギーに依存している事実を焦点を当てた発表がなされまし

た。核兵器禁止の実現には、核の傘の庇護下にある国も含めた核エネルギーの利用をやめていく必要性が提示されました。そのほか、核兵器禁止条約の実現に向け、ICANNの取り組みの概観や世界の核軍縮の動向、アフリカ経済機構への働きかけ、Advocacy 活動についての発表がなされました。

4日間で話し合われたこと、5. 問題同士として世代間をつなげる。 会期後の理事会で、世界大会で話し合われたことの承認が行われました。

すると共に、会の維持とさらなる発展に向けて、運動を若手医師、学生らに引き継ぐ活動が提起された。
学生部会からは広島フールドワーク、IPPNW 世界大会ケニアなどの活動が報告された。世界大会については会議の様子だけでなく、反核を呼び掛けるバイクツアーへの参加など、多様な取り組みが報告された。また、金融機関の核兵器製造企業への投融資に関する調査結果報告会等「Don't Bank On The Bomb」(DABOB)の取り組みについて、近畿反核医師懇談会より報告があった。唯一の被爆国である日本の大手銀行がDABOBに参加する重要性などが提起され、運動が共有された。

2面からつづく

若手医師、学生らへの
引継ぎについて、光武鮎
常任世話人より反核医師

の会の後継者育成プロジェクトの立ち上げが提起され、承認された。
大会の終わりに、政
府に対し核兵器禁止条約

に署名・批准することを求める決議案が提案、採
択された。
午後山形英郎氏(名
古屋大学大学院国際開

研究科教授)を招き、記
念講演を行った。

反核医師の会全国大会 記念講演

「ウクライナ戦争と国際平和秩序」 山形英郎氏

6月1日に開催された反核医師の会第19回全
国大会で名古屋大学大学院国際開研究科山形
英郎教授が「ウクライナ戦争と国際平和秩序」
と題して記念講演を行った。

最初にロシアによるウ
クライナ侵攻が国際法違
反であることを詳細に検
証した。国際法では「戦
争」という言葉は使用し
ないと説明した上で、「武
力行使」「武力攻撃」「侵
略」とそれぞれ国際法上
の定義を明らかにした。

ソボ国際委員会は「国際
法には違法だが『正当』
な行為として許容した。
2008年コンボは独立
宣言し国際社会の約半数
から国家として承認され
た。少数民族の独立を認
めないロシア・中国など
は不承認だった。プーチ
ンはこれを取り上げて
「NATOは国連安保理
の授權なくベオグラード
に対して、血に飢えた軍
事行動を行った」として
自らの侵略を正当化し
た。しかし、ドネツク・
ルガンスク両国は少数民
族独立というわけではな
くロシア話者で、自決権
の享有主体にはなれな
い。両国はウクライナ領
内であり、一方的独立宣
言は認められない。



山形英郎
名古屋大学大学院教授

次に日本国憲法九条に
おける自衛権について解
説した。敵基地攻撃は集
団的自衛権の本質と指
摘。個別的自衛権はそも
そも個別国家に認められ
ている。しかし、権利で
あって義務ではない。国
家が自衛権を行使するか

長崎FWを振り返って

東北医科薬科大学医学部5年 藤岡篤司

こんにちは。

反核医師の会学生部会
代表の藤岡篤司と申しま
す。

学生部会は核問題に興
味を持った全国の医学生
で構成され、フィールド
ワーク(FW)や学習会
を通じて核問題について
学びを深めています。

今年1月に約3年ぶ
りとなるFWを広島で開
催し、核問題に興味があ
る学生や医師が全国から
集まって交流を深めるこ
とができた良い機会にな
りました。そして、5/27(土)~28(日)に今
年2度目となるFWを長
崎で開催しました。

長崎は、広島に続き原
爆が投下されたというこ
とで過去の戦争や原爆を
学習するには欠かせない
場所と私たちは考えてい
ます。今回の長崎FWで
は、爆心地から500~
1000m圏内(長崎市)
を中心に見学し学習して
きました。



長崎FWに参加した学生部会員ら

1日目は、4グループ
に分かれて原爆資料館や
平和公園を始めとした原
爆遺構をガイドさんの案
内のもと平和公園や長崎
大学(旧長崎医科大学)
周辺を見学しました。

長崎は、広島に続き原
爆が投下されたというこ
とで過去の戦争や原爆を
学習するには欠かせない
場所と私たちは考えてい
ます。今回の長崎FWで
は、爆心地から500~
1000m圏内(長崎市)
を中心に見学し学習して
きました。

見学終了後、FW参加
者でグループディスカッ
ションをしました。見学

長崎は、広島に続き原
爆が投下されたというこ
とで過去の戦争や原爆を
学習するには欠かせない
場所と私たちは考えてい
ます。今回の長崎FWで
は、爆心地から500~
1000m圏内(長崎市)
を中心に見学し学習して
きました。

した。そのため、市内に
は今も沢山の爪痕が残さ
れており、原爆の恐ろし
さを改めて感じました。

原爆後障害医療研究所
で、自ら被爆しながらも
被爆者の救護にあたった
永井隆博士の精神を受け
継いだバネルを見て、医
療者として尊重すべき姿
勢であり、こんな医師に
なりたく強く思いまし
た。

見学終了後、FW参加
者でグループディスカッ
ションをしました。見学

見学終了後、FW参加
者でグループディスカッ
ションをしました。見学

見学終了後、FW参加
者でグループディスカッ
ションをしました。見学

後継者育成プロジェクトを立ち上げ

小内ゆい(北海道の会・研修医)、鳥井沙南(北海道の会・研修医)

2022年2月24日に
ロシアによるウクライナ
侵攻が始まり、世界中が
核使用の恐怖に脅かさ
れ、日本国内でも核共有
や軍事費増大の声が広が
り始めた。全国の地方自
治体では、18歳~22歳の
若者の名簿を自衛隊に提
供するなど、戦争する準
備が着実に進められてい
る。こうした状況の中で、
反核医師の会・学生部会
では、私が入会した20
17年から会員数が倍増
しており、医学生や反核
平和運動への関心が高ま
っている。しかし、初期

研修医として北海道の地
で働き始め、若い人たち
の中に平和運動を広げる
難しさを実感した。医学
生が卒業してからも、学
生部会でできた仲間と共
に継続して学び、自発的
に活動できる場を作るこ
とが必要であると考え、
反核医師の会全国大会で
後継者育成プロジェクト
の立ち上げを提起した。

研修医として北海道の地
で働き始め、若い人たち
の中に平和運動を広げる
難しさを実感した。医学
生が卒業してからも、学
生部会でできた仲間と共
に継続して学び、自発的
に活動できる場を作るこ
とが必要であると考え、
反核医師の会全国大会で
後継者育成プロジェクト
の立ち上げを提起した。

研修医として北海道の地
で働き始め、若い人たち
の中に平和運動を広げる
難しさを実感した。医学
生が卒業してからも、学
生部会でできた仲間と共
に継続して学び、自発的
に活動できる場を作るこ
とが必要であると考え、
反核医師の会全国大会で
後継者育成プロジェクト
の立ち上げを提起した。

の感想から、過去の歴史
をどう後世に伝えていく
べきか、核兵器廃絶のた
めに何をすべきか等深い
内容まで議論でき、有意
義な時間でした。2日目
は、RECNAの中村桂
子先生の講演会と高校生
平和大使の交流会があり
ました。中村桂子先生の
講演では、核抑止が強ま
る現状でも核兵器廃絶す
ることがなぜ重要か分か
りやすく説明していただ
き、すくく勉強になりました。

このFWで沢山の学び
・出会い・感動がありま
した。私はそれらをすつ
と大事にしていきたいで
すし、今後の学習にも繋
げていきたいです。

FWも近々開催できれ
ばと考えていますので、

FWも近々開催できれ
ばと考えていますので、

FWも近々開催できれ
ばと考えていますので、

すぐ新鮮で感銘を受け
ました。「私たちは無力
ではない」という言葉は
今も心に残っています。

高校生の頃からいろん
なことを考え行動してい
るんだ、学生だからこそ
核兵器廃絶のため何かで
きる可能性があるんじゃないかと勇気を貰い、学生
部会の活動を更に盛り上
げていこうと励みにもな
りました。

FWも近々開催できれ
ばと考えていますので、

FWも近々開催できれ
ばと考えていますので、

FWも近々開催できれ
ばと考えていますので、



高校生平和大使との
交流会

近畿反核医師懇談会・反核医師の会 Don't Bank On the Bomb! G7サミットにあわせて広島からアピール イタリアの投資ファンドとともに



右から武村義人兵庫県保険医協会副理事長、松井和夫和歌山協合理事、佐々木敏哉広島民医連会長

G7広島サミットの開催を前に、近畿反核医師懇談会と反核医師の会は5月7日、広島市内で第4回金融機関の核兵器製造企業への投融資に関する調査・結果報告会を開催。司会を兵庫県保険医協会の武村義人副理事長が、報告を松井和夫和歌山協合理事務、中川武夫反核医師の会代表世話人があいさつした。地元の広島民医連の佐々木敏哉会長が同席した。

2019年に京都で開催した「反核のこころ」以降、近畿反核医師懇談会が中心となり、ICANNの中心団体の一つであるオランダのNGO、PAXが進めてきた「Don't Bank On the Bomb」(核兵器にお金を貸すな)キャンペーンに力をいれており、毎年、国内の金融機関に対し、核兵器製造企業への投融資の実態調査を行うとともに核兵器製造企業への投融資を中



アルド・ボナティ氏 (エチカ・ファンド)

止するよう求めてきた。この運動は世界中で取り組まれており、昨年の第1回核兵器禁止条約締結国会議では、アメリカやイタリアの銀行や投資ファンドのCEOが登壇し、核兵器開発・製造からのダイバーストメント(投融資の引き揚げ)を訴えている。

今回の金融機関調査は、約1兆円を運用するイタリアの投資ファンド・エチカファンドが、ICANNにも「Investors Open Statement to States Parties on the Treaty on the Prohibition of Nuclear Weapons (IPNW)」(仮訳「核兵器禁止条約締結

国への投資家による公開声明)を発表し、世界の金融機関などに、核兵器製造企業への投融資からのダイバーストメントを表明するように求めていることを受け、国内の金融機関を対象に、同声明の個別項目に対する賛否を問うた。結果、大手銀行5行と地方銀行1行、生命保険会社4社から回答を得、りそな銀行が同声明に対して「賛同する方向で検討したい」、三井住友トラストホールディングスが内容に「賛同できる」と回答した。

報告会では、PAXのスージー・スナイダー氏がビデオメッセージを寄せた他、エチカ・ファンドのアルド・ボナティ氏(エチカ・ファンド)が「投資管理&ESGネットワーク」に参加。スージー氏は、メッセージで「世界中の投資家は、イタリアのエチカ・ファンドが起草したこの声明に署名するよう、核兵器を非難する声に加わることができると報告できるように、さらに取り組みを強めてほしい」と呼びかけた。

家がこの声明に署名している一方で、日本の金融機関が一つも賛同していないことを告発。近畿反核医師懇談会の取り組みを高く評価し、「今年、開催される第2回核兵器禁止条約締結国会議で、日本の金融機関も署名していることを報告できるように、さらに取り組みを強めてほしい」と呼びかけた。

アンケートの詳細やキャンペーンについて詳しくは **Don't Bank On the Bomb 特設ページ** をご覧ください!

PAX スージー・スナイダーさんのメッセージ動画を新たに公開!

<http://www.hhk.jp/dbob/>
※「DBOB」で検索

会費納入のおねがい

反核医師の会は、会員みなさまの会費と、主旨に賛同いただいている募金によって運営しています。

2023年度は第19回全国大会の他、「つどい in 北海道」を9月23日~24日に開催するなどの取り組みが予定されています。

2023年度(2023年4月1日~2024年3月31日)の会費納入のほど、よろしくお願いたします。

個人会員 (医師・歯科医師、医学者)	10,000円
研修医 (卒後2年まで)	3,000円
医・歯学生会員	1,000円
賛助会員	1,000円

振込先
 ◇りそな銀行 新都心営業部 普通 1557502
 「反核医師・医学者の集い」
 ◇ゆうちょ銀行 (他銀行からの振り込みの場合) ○一九支店
 当座 0056764 「反核医師・医学者の集い」
 ◇郵便振替00170-7-56764 「反核医師・医学者の集い」

読書案内

『コミュニティ・オーガナイズング
ほしい未来をみんなで創る5つのステップ』
鎌田華乃子
英治出版
2020年11月12日出版 320頁、2200円(税込)

「仕方がない」から「仕方がある」へ
「仕方がない」から「仕方がある」へ

新しくきた教頭先生が突然言い出した。「明日から昼休みの自由時間を無くして、読書の時間にします。」小学校5年生のカナメは嫌だったが、教頭先生の決めたことなら仕方ないと諦めていた。しかし近所に住む年上のユキさんは「変える方法があるよ」という。この、変える方法というのが「コミュニティ・オーガナイズング」だ。広げていき、行動して社

困難に直面している当事者たちが力を集めて輪を運動を分析して体系立てた方法論だ。

カナメは行動を始める。カナメの語りには大事な要素が散りばめられている。①自由な休み時間、②みんなが得意な活動、③先生などの偉い人に任せるのではなく生徒たちが自分たちの力に気づき高めていくことで、解決する力が増すという考え方だ。これは核廃絶の運動とも共通する。核兵器禁止条約はまさに、

加わり、最終的にはスイミーのようにみんなで力を合わせて自由な休み時間を取り戻す。

私も、今までも社会を変えたい活動に参加してきたが、その方法は手探りだった。この本を読んだ時、私の過去の成功経験や失敗したこと、理由が言葉にならなっていたことに感動した。そして、自分たちは核のある世界の当事者だと気づき始めている今、より一層自分自身の当事者性に向き合いたい、自分たちの力を信じて活動していきたい。(光武結帯任世話人)